

業連だより

4月6日(木)、業務連絡会議が開催された。開会にあたり、富澤理事長が、安全保障シンポジウムや観桜会等の行事が無事行われたことへの謝意を表された。

小柳専務理事の進行で、協議事項「平成29年度偕行社総会(創立60周年記念総会)について」の審議に入り、若木事務局長の説明の後、実施内容、講師等について意見交換を実施した。

創立60周年記念総会としての特別な行事はせず、例年通りの形で行うこととなった。記念講演については、陸幕長は例年米出国出張の可能性もあることから挨拶を予定し、講師は防大校長、政治家等を中心に検討・調整することにした。理事長からの感謝状の贈呈についても検討することになった。

続いて白石副理事長から「将来検討委員会の検討状況について」の報告があった。

今回、地方偕行会との一体化について議論した結果、別組織として協力関係を強化する方向で意見が終息しつつある。今後、これまでの議論を踏まえて委員会ごとに、将来態勢をイメージアップすることとなった。

火箱安全保障委員長から「安全保障シンポジウムの実施成果について」報告があった。

新聞社3社、週刊誌1社が取材したものの、現職自衛官の異動日と重なり参加者が減少した。また、急遽基調講演者が、パネルディスカッションに参加できなくなり、内容的に論点が狭くなったが、自衛隊OBの活躍により、内容のあるシンポジウムになった。

柳沢入会促進特別委員長から、「第4回元幹部自衛官会員会同の実施成果について」報告があった。

3年半ぶりの開催で、元自衛官会員3千名達成記念会同として実施することができた。参加者は、旧軍関係者19名を含む172名であった。

熊谷慰霊援護委員長から、「軍馬・軍犬・軍鳩慰霊祭の成果について」報告があった。

若木事務局長から、4月3日に開催された「偕行社観桜会の収支報告について」の報告後、「偕行社の収益事業」に関する内閣府との調整状況の説明があった。特に、不動産運営事業は収益事業であり、内閣府への変更認定処置が困難との現状説明があった。

その後、「靖國神社春季例大祭出席希望者の確認」と「平成29年度靖國神社崇敬奉賛会の評議員受諾について(理事)」報告があった。